

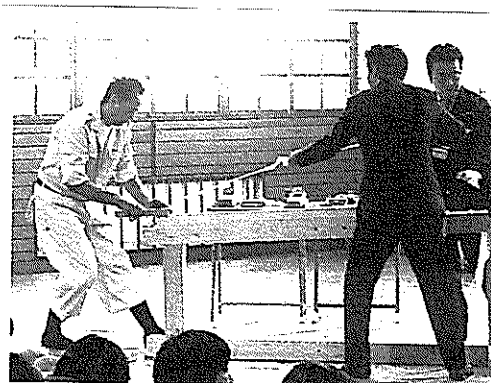
戦略的  
広報推進協

## 初の中学生キャラバン

熟練の技に熱視線——。多感な年代に建設業の役割や、ものづくりの魅力を直接語りかけ、理解を深めてもらおうという、中学生を対象とした初のキャラバンが10月31日にさいたま市立春里中学校で開かれた。国土交通省や建設業団体などで組織する「建設産業戦略的広報推進協議会」(事務局・建設業振興基金)が実施したもので、1年生の約270人が参加。大工職人として匠の技を極めた宮沢俊哉アキュラホーム社長による鉋がけの実演に、生徒たちは目を丸くしながら「何年ぐらいでこの技術を身につけられましたか」「薄く削るコツは」などと矢継ぎ早に質問する声が上がった。＝関連5面

鉋がけによって顔や文字が映るまでツルツルになった木材や、その透き通るような削り華(けずりばな)を手にとり驚く生徒たちに宮沢社長は、ものづくりが好きだった少年時代から、大工の修行時代へと話題を展開。「厳しくつらい修行の中で、人がなかなかできないことができるようになり、楽しくなってくる」と、さまざまな職業に通じる「腕を上げる」厳しさと楽しさを、自身の経験をもとに

# 匠の技興味引き出す



宮沢社長が熟練の技を披露

分かりやすく伝えた。さらに、仕事に当たっては「8割は準備や用意」と「段取り八分」の大切さも説き、



手触り感を確かめる生徒

生徒たちは熱心に聞き入っていた。

今回のキャラバンでは、のこぎりや鉋、しっくい、こてなどの道具を使って大工や左官などの技を実際に体験してもらったほか、ロボットスーツの試着など、好奇心が強い中学生に対して、ものづくりへの興味を引き出そうとプログラムに工夫を凝らし、好評を博していた。

建設産業戦略的広報推進協議会（事務局・建設業振興基金）は、さいたま市の市立春里中学校で10月31日に開いたキャラバン（建設産業ものづくり体験事業）で、団体や民間企業、行政が一体となった多彩な体験型のプログラムを展開した。

冒頭、体験授業を企画した国土交通省土地建設産業局建設市場整備課の木村実課長を始め、関東地方整備局建設部下岡壽建設産業調整官、土木学会の黒川信子氏、藤井俊逸氏、埼玉県左官業協会の五

十嵐正志会長、アキユラホームの宮沢俊哉社長、大和ハウスの杉本マキ氏が講師として紹介された。

代表して木村課長があいさつし、建設産業のものづくりについて「違う場所で違うものを一つひとつ注文してつくっており、高い技術を持った人たちがチームワークを良くして立派な道や橋、建物など

### 戦略的協議会 推進

## 多彩なプログラム展開

### 中学校でもものづくり体験



生徒に呼び掛ける木村課長



ロボットスーツを体験



職人体験の壁塗り

来、興味があれば動めることも考えてほしい」と生徒たち

ができる」と大量生産する分

野との違いを説き、「身近な産業であることを体感し、将

座学では、建設業振興基金経営基盤整備支援センター人材育成支援課の宮岡早苗課長代理が、建設業にまつわるクイズなどで生徒と交流を深めるとともに、海外で活躍する人や最先端技術などを紹介した。宮沢社長は「五感で感じてほしい」と、生徒の前で鉋がけを披露し、加工前と加工後の木材の手触り感などを生

徒に実感してもらった。鉋がけで出た削り華（ぼな）は生徒にプレゼントした。

閉会式では参加した生徒から「建設産業に携わる多くの人が社会を支えていることが分かった」とお礼の言葉が寄せられた。